SRL Monthly Report
半導体産業の動向と将来に関する独自の分析と解説を中心としたレポート
2019. 9

2019年9月（No.363)

主な内容とページ

米中貿易戦争と半導体貿易 1
半導体輸出は中国が最高更新、韓国が下落 2
輸入は米が中国分の半減で大幅減 2
中国の半導体輸入、3 四半期連続で前年割れ 3
米中貿易戦争と半導体 9
M&A 認可権と制裁の解除 10
制裁関税と特定企業を標的にした通商交渉 11
米中貿易紛争と日本（SRL だより) 12

米中貿易戦争と半導体貿易

米国が中国からの輸入品に対して制裁関税を適用して約 1 年。何が変化しているか探った。

1. 半導体の貿易では、今年上期までの実績で中国は米国からの輸入が増大、反対に米国では中国からの輸入が急減。また中国の半導体輸出が増加、中国内の生産拠点の移転を反映している。

2. 半導体貿易への影響は現段階では制裁関税の適用よりも、特定企業（ZTE、ファーウェイ等）を標的とした禁輸措置の衝撃が強いとみられる。今後も政治的な交渉、判断に左右される動きが続きそう。

3. 半導体では最大の市場を持つ中国と最大のシェアと競争力を有す米国。貿易不均衡、安全保障の今後をかけて半導体が政治交渉の中心になるとみられ、その行方が新たな秩序をもたらそう。

米中貿易紛争と日本

過去 20 年で世界的に最も国力を伸ばしたのは中国だろう。わが国は、この時期に失われた 20 年を味わった。それでも世界金融危機を含めていく度かの試練から立ち直れたのは、隣国の中国の発展に救われた面が多かったと思う。ただし、台湾や韓国は、中国の発展により、わが国をはるかに超えた飛躍を実現した。

中国の発展は、米国との対立、世界のトップを賭けた覇権争いに入り、大きな変化をみせている。わが国は、80 年代に貿易戦争を経験したが、今回は代わって中国が表舞台に立った。今後はどうなるか。わが国が経験したように独り勝ちから分散か、それともアジア時代の到来か、潮流はどこに向かうのだろうか。

わが国は紛争には直接巻き込まれていないが、かつての経験を活かす必要があろう。日米貿易紛争を経て、わが国は疲弊、反対に周辺国が発展したように紛争は一極集中から分散化、均等化をもたらす可能性を含む。今の時期こそ時代の変化をかぎ取り、先をみた行動が求められていると感じるのは私だけではないと思う。

（大竹　修）

本誌の内容一覧、索引は、SRL（半導体総合研究所）ホームページをご利用ください。

http://www.semiconresearch.co.jp/

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL（半導体総合研究所）の解釈と分析で表現したものです。

2019 年　版権所有　SRL(半導体総合研究所)

SRL　Monthly　Report
2019 年 9 月（毎月 1 回発行）第 30 巻 9 号（通巻 363 号）

発行元：株式会社 SRL
〒188-0014　東京都　西東京市　芝久保町　3-1-35
TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023
編集・発行人/大竹　修

SRL　Monthly　Report
September　2019,　No.363

Semicon　Research　Ltd.
3-1-35　Shibakubo-Cho, Nishitokyo-City, Tokyo 188-0014
Japan　　Mail: info@semiconresearch.co.jp
Publisher/Editor　Osamu Ohtake

© ㈱SRL　2019

購読料金1年分（12号）98,000円（税別）